

2024年3月21日  
国際通貨研究所ウェビナー

# クロスボーダー送金の課題と対応

## —Swiftの対応を中心に—

麗澤大学 経済学部 教授  
中島 真志

# クロスボーダー送金が注目されている理由

## (1) 国内送金の迅速化の達成

- 国内送金については、「**インスタント・ペイメント**」(ファスター・ペイメント)の普及により、ほぼ効率化が達成された
- **24時間365日(24/7)、リアルタイムの決済を提供する小口決済システム**
- **世界の60カ国**で稼働(うち20カ国はEU)
  - **ファスター・ペイメント**(英)、**FAST**(シンガポール)、**NPP**(豪州)
  - 欧州：**RT1**(EBA Clearing)、**TIPS**(ECB)
  - 米国：**RTPネットワーク**(TCH)、**FedNow\***(Fed) \*2023年7月に稼働を開始

⇒ 次はクロスボーダー送金へ！との気運

## G20のロードマップへの対応

### (2) G20の動き

- 1) 2017年に、**クロスボーダー送金の改善**を優先事項に設定
- 2) 2020年10月、**FSB**（金融安定理事会）が、**行動計画**を策定  
— **5つの重点分野**と**19のビルディング・ブロック**で構成
- 3) 2021年10月には、FSBが**クロスボーダー送金の改善**に向けた  
**ロードマップ**を作成  
→ **4つの目標**を**2027年までに達成**することを求める

# クロスボーダー送金の4つの達成目標

(FSB、2021年10月)

ターゲット	内容
① 送金コスト	国際送金の平均コスト(手数料+為替コスト)を1%未満とすること すべての送金ルートのコストが3%を上回らないこと
② 着金スピード	国際送金のうち、75%が1時間以内に利用可能となること 残りの25%は、1日以内に着金すること
③ アクセス	エンドユーザーは、送金を送る/受取るために、少なくとも1つのオプションを持つこと
④ 透明性	トータルな送金コスト、着金までの予想される時間、送金のステータスのトラッキング、サービス条件などを透明にすること

➤ GPI → Global Payments Innovationの略  
2017年1月から稼働を開始

➤ GPIの目標 ⇒ 国際送金のスピード、透明性、追跡性を高める

- ① 国際送金の即日着金
- ② 手数料の透明性
- ③ 送金の追跡可能性
- ④ レミッタンス情報の統一性の確保

<背景>

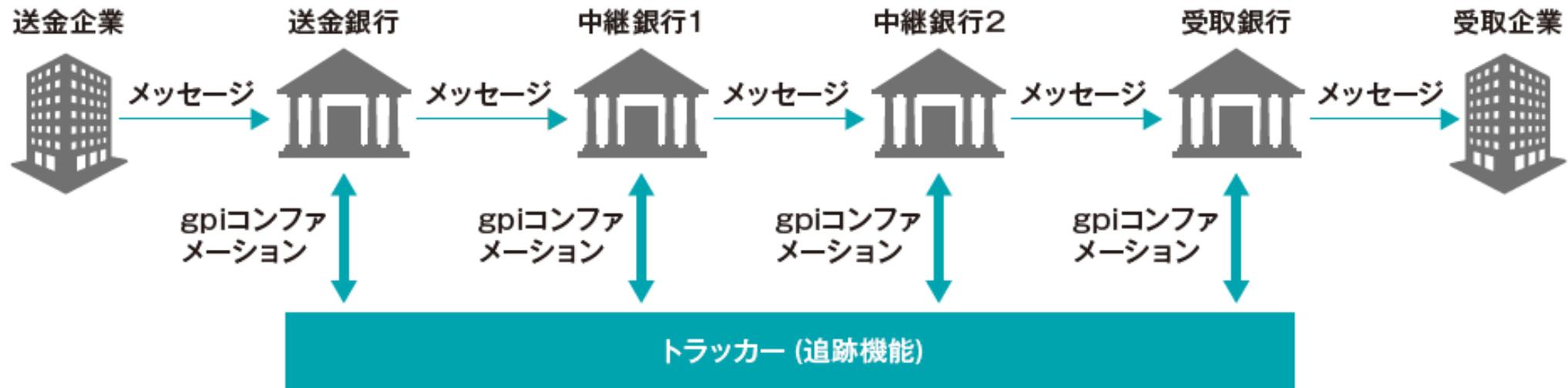
- ① 国際送金に対する批判の高まり  
(遅い、高い、分かりにくい)
- ② ノンバンクのライバルの登場  
(Ripple, Wiseなど)

➤ **トラッカー(UETR\*)**の導入

- 送金指図に対するユニークな**追跡番号** (like DHL)
- リアルタイムに送金のステイタスが確認できる

\* unique end-to-end transaction reference

# トラッカー（追跡機能）の仕組み



## GPIの導入状況（2023年12月時点）

- GPIのサイン済み行：4,450行以上（Swiftの全ユーザーの4割）
- GPIのライブ行：約 2,200行
- GPIによる送金額：5,300億ドル / 日（≒ 80兆円）
- クロスボーダー送金の 80% がGPIにより送金されている
  - ⇒ 今や、GPIの利用がSWIFTにおける「New Normal」となっている

## GPIに関する義務付け

### ① **Mandatory UETR**の導入(2018年11月から)

- すべての送金に**トラッカーの付番**が義務付け
- これによりすべての送金が追跡可能に(**all payment trackable**)
- 中小銀行向け(GPIの未利用先)には、**Basic Tracker**(機能が限定)を提供

### ② **Universal Confirmation**の導入(2020年11月から)

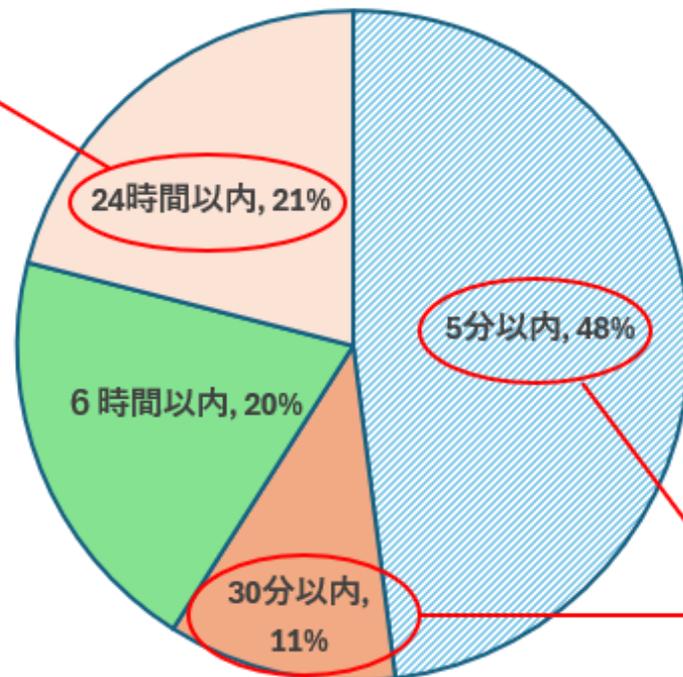
- すべての受取銀行に、**着金の通知**が義務付け
- すべての**送金銀行**は、自分の取り組んだ送金の着金をリアルタイムに知ることができる (銀行では、リアルタイムで企業に通知するサービスも)

- ・ 着金の確実性が上昇
  - 1) 企業にとってメリット(早期に着金を確認)
  - 2) 銀行にとってもメリット(問い合わせ対応が減る)

# GPIによる送金時間

(2023年末時点)

ほぼ100%が24時間以内に着金



- ・ 国際送金は、かなりスピードアップしている
- ・ 2~3日かかる → 昔の話

約6割が30分以内に着金

## 1時間以内での着金の目標

- 2023年8月の時点で、「89%の送金メッセージが1時間以内に受取銀行へ」  
(Swiftは、G20のターゲットを達成した！？)

<Swiftのプレスリリース>



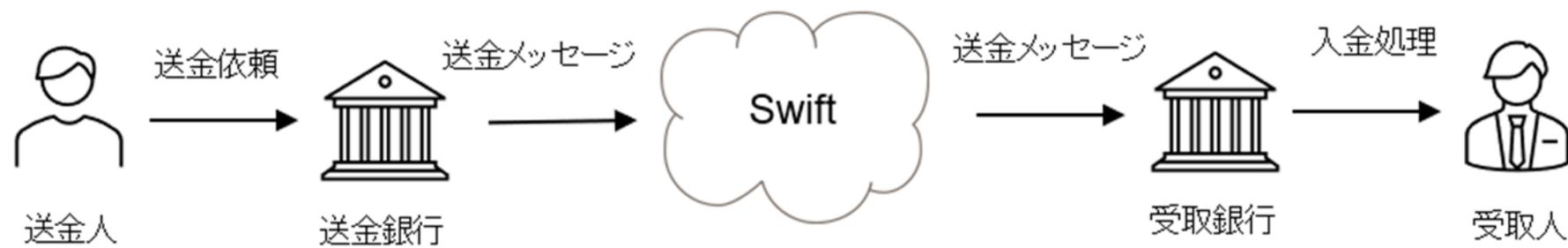
Cross-border payments on  
Swift exceed the G20's  
processing speed target

Payments, 22 August 2023 | 4 min read

- ✓ SWIFTでは、「89%の達成率」を強調！

## 1時間以内での着金の目標

- ただし、対象とする区間が異なる
- ✓ 銀行側でのさらなる努力が必要となる



Swiftのデータ(89%を達成)



G20のターゲット(75%を目標)

- Swiftの小口用の国際送金サービス：GPIの仕組みを応用したもの。
- 主として、中小企業や個人による国際送金を対象。  
小口のクロスボーダー送金 (low value cross-border payment) に特化したサービス
- 取扱通貨は、3通貨のみ (米ドル、ユーロ、英ポンド) → 今後は拡大へ
- 小口送金用であるため、送金額には上限あり (1万ドル、1万ユーロ、1万英ポンド)



## Swift Goの実現方法

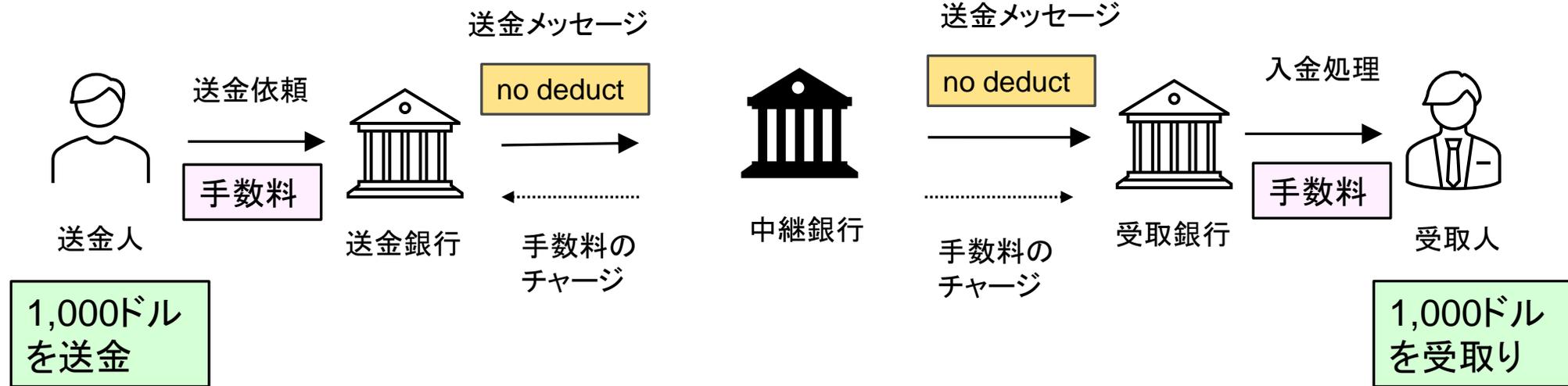
- ① 参加行間で、GPIよりさらにタイトな **SLA** (Service Level Agreement) を締結することによって実現。
  - Swiftが決めた **タイトなSLA** を厳守することを約束して、Swift Goに参加  
(着金までは、最大4時間以内など)
- ② 単純化により **STP化**を実現
  - **送金フォーマット**を1種類に限定
  - **手数料体系**は、**2種類のみ**に限定 (STP化送金、非STP化送金)
- ③ 銀行では、**自行のアプリ**に「Swift Go」の機能を入れて、顧客に提供する
  - 顧客の紙ベースの **書類への記入** や **銀行員の手作業** は介在させない。

## Swift Goの特徴

- ① STPによる処理を前提としている
  - 自行の「アプリ」にSwift Goの機能を入れて提供する
  - 顧客がスマホを操作することにより、国際送金を実施（銀行の人手は不要）
- ② 着金が早い
  - SLAでは「4時間以内に着金」→ 実際には 2~3分で着金している！
- ③ 途中で手数料が差し引かれない（no deduct）
  - 送金金額の全額（full amount）がそのまま着金する  
（1,000ドルを送金したら、1,000ドルが入金される）



# Swift Goにおける手数料



## Swift Goの特徴（2）

### ④「予測可能性」あり（predictable）

- － 手数料、着金金額、着金時間などを、送金人が 事前を知る ことができる

### ⑤ シンプルな仕組み

- － 送金フォーマットは 1つのみ（single format）
- － 手数料体系は 2種類（STP化送金と非STP化送金）



## Swift Goの普及状況

- 2021年7月に稼働を開始
- 2023年6月時点で
  - 640行が利用を契約（signed banks）
  - 約300行が稼働を開始（live banks）
- Swift GPIのサイン済み行は、4,000行以上（ライブ行は2,000行以上）
  - これに比べると、Swift Goはやや伸び悩み（？）



## Swift Goの料金体系の見直し

➤ Swift Goでは、手数料の徴収方法を「**OUR**」(送金側が徴収)に限定



コルレス契約の全般の手数料の徴収方法と異なる場合が多い



Swift Goを導入するためには、コルレス契約の見直しが必要  
(Swift Go用の条項を追加するなど)



Swift Goの普及の壁に(?)



従来のコルレス契約の通りの課金も認める方向へ

(「**SHA**」<中継銀行や受取銀行も課金> や「**BEN**」<受取側の徴収>も認める)

ただし、「**No Deduct**」  
は引き続き禁止

SWIFTの対応

### ③ 決済システム間リンク

即時クロスボーダー決済 (IXB) (Immediate Cross-Border Payments)

- ・ IXBは、小口決済システム(インスタント・ペイメント)同士をSwiftのネットワークで結ぶプロジェクト
- ・ リアルタイムでのクロスボーダー送金を実現することを目指す
- ・ 2021年に、欧州の「RT1」と米国の「RTPネットワーク」を結んだ国際送金の実験を実施
  - クロスボーダー送金が10秒で着金し、実験は成功としていた

# IXBによる欧州と米国のリンク



ISO 20022

ISO 20022

**RT1**  
**(欧州)**  
(EBAクリアリングが運営)

**RTPネットワーク**  
**(米国)**  
(TCHが運営)

参加行



参加行



10秒で着金

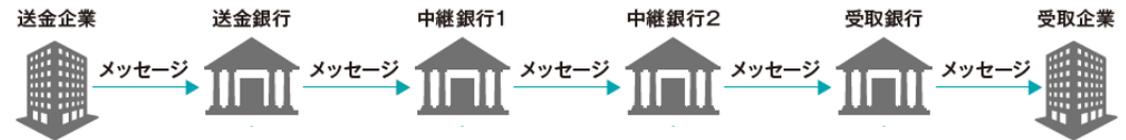


## 従来との違い

- 従来 (GPI, Goなど) は、**個別銀行間の** **コルレス・バンキング** における効率化



**決済システム間の** **リンク** による効率化



- **メリット**

1) **決済システムが相互リンクに対応する**  
(個別行の対応が不要に)

2) **中小銀行** における国際送金の効率化が可能に  
(より**多くの銀行**が参加できるスキームに)

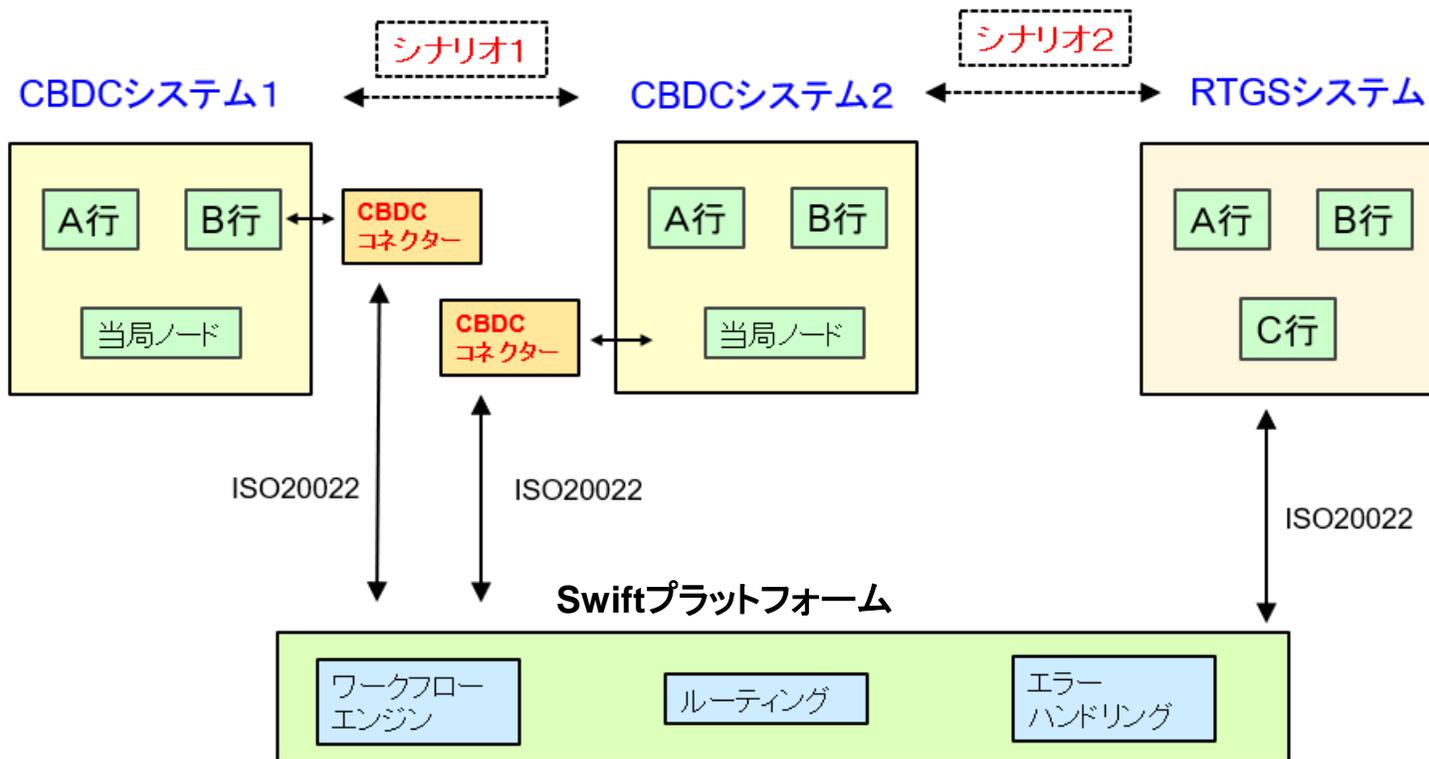
## IXBの進捗状況

- 当初は、欧州と米国の間で、2023年中にも「商用化」(本格稼働)がスタートするとの計画であった
  - ↓
  - 2023年秋の時点では、このプロジェクトは、「棚上げ状態」(on ice)
    - コンプラやレギュレーションの問題がネックになっている模様  
(IT的な仕組みについては全く問題なしとのこと)
  - インスタント・ペイメントのクロスボーダーのリンクについては、国際的なルールがないことが原因

### ④ SwiftによるCBDCのリンク実験

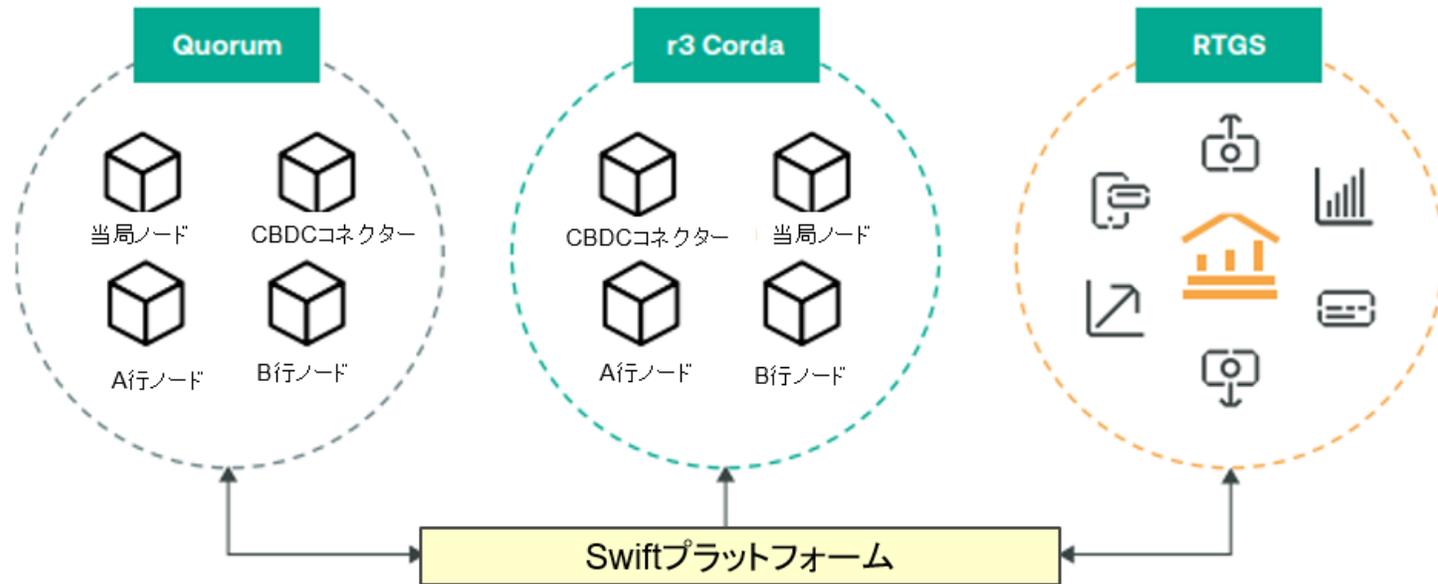
➤ Swiftでは、各国のCBDCをリンクする実験を行っている

Swiftのリンク実験（フェーズ2：2022年）



## SwiftによるCBDCのリンク実験（2）

- 「サンドボックス・プロジェクト」の実施（2023年3月まで）
  - 3つの中銀（仏中銀、独中銀、MAS）と15の民間銀行が参加
  - 「Quorum」と「Corda」という2つのブロックチェーンとRTGSとのリンクを実験



## SwiftによるCBDCのリンク実験（3）

### ➤ サンドボックス・プロジェクトの次の段階

#### （1）CBDCコネクターの「ベータ版\*」の作成

- － 3つの中銀とテストを開始（HKMA、カザフスタン中銀など）

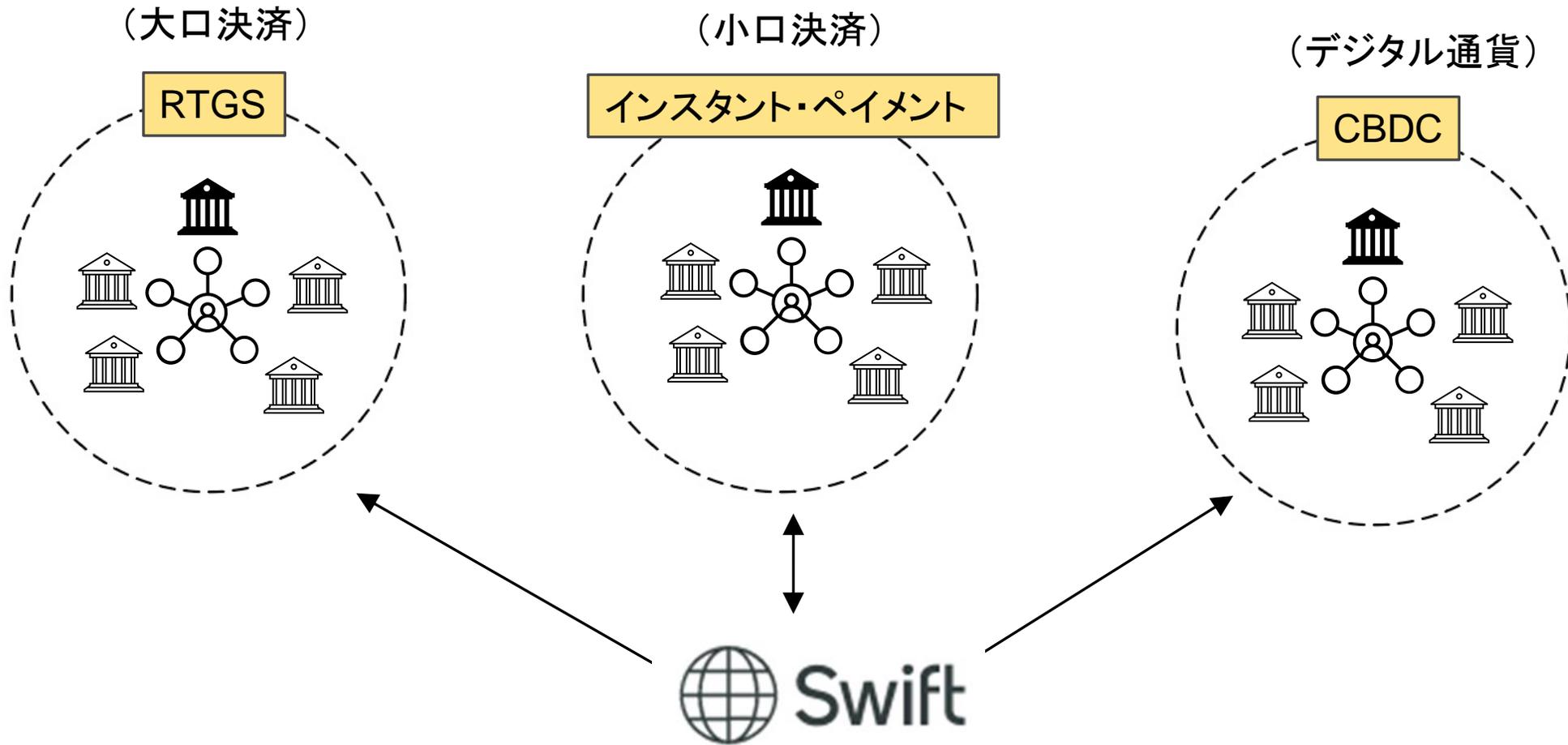
\* 正式版をリリースする前にユーザーに試用してもらうためのサンプルのソフトウェア

#### （2）サンドボックス・プロジェクトの「フェーズ2」の実施

- 4つの中銀（独中銀、豪中銀、HKMA、タイ中銀）など30の金融機関が参加
- 追加的な機能のテスト

- 1) トリガーに基づいた支払い
- 2) 外貨への交換モデル
- 3) 証券とのDVP決済
- 4) 流動性節約機能

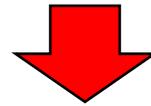
# Swiftの究極のビジョン



出所: Swift

## まとめ

クロスボーダー送金の改善  
(G20のロードマップへの対応)



- ① Swift GPI
- ② Swift Go
- ③ IXB (即時クロスボーダー決済)
- ④ CBDC間のリンク (実験)

## ISO20022 (MX) への移行

- ・ Swiftでは、メッセージ・フォーマットを  
**MT** (従来型の固定長) から **MX (ISO20022準拠)** への移行を進めている
- ・ 移行の開始 : **2023年3月** にスタート
- ・ MXへの移行期限 : **2025年11月** まで  
(それまでに、すべてのユーザーが移行を完了させる必要)
- ・ MTとMXの併存期間 : Swiftが**翻訳機能**を提供する

## MXのメリット

### 1. リッチ・データ

- 従来よりも多くのデータを含めることができる  
(インボイス情報など送金内容の詳細)

### 2. ストラクチャード・データ

- 構造化されたかたちのメッセージとなる  
→ 自動化が可能に

- ✓ コンプライアンス(AMLチェック)面でのメリットが大きい(?)
  - ー ヒット率の向上と偽陽性(false positive)の減少

# MTとMXの違い

## ①MTのデータ構造

名前＋住所が平文で

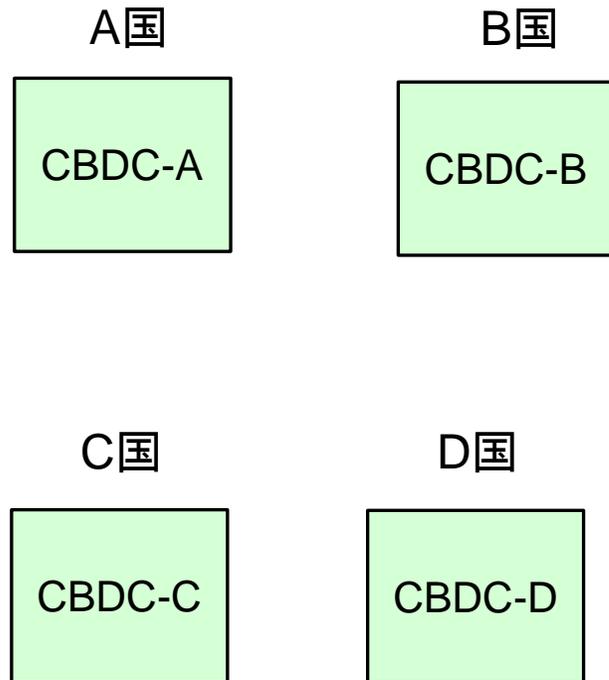
John Hector, Marketing  
Department, Sales Division,  
HOOGSTRAAT, 6, 1000  
Brussel, Belgium

## ②MXのデータ構造

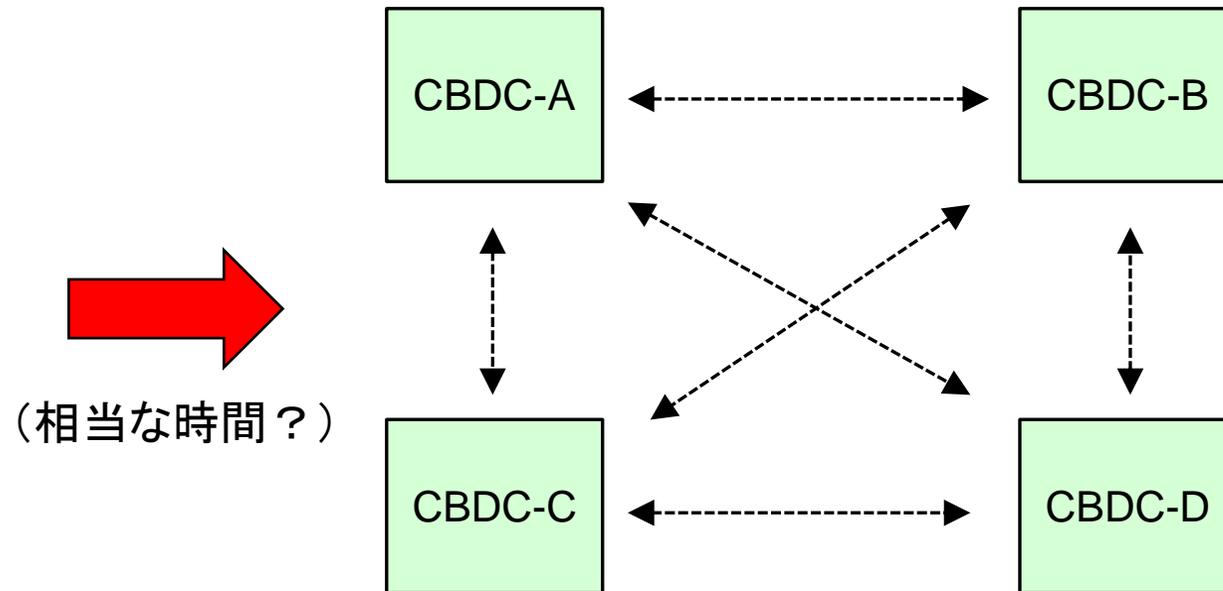
MX のデータ・エレメント		具体例
送金人	名前	John Hector
住所	部署	Marketing Department
	サブ部署	Sales Division
	ストリーツの名前	HOOGSTRAAT
	建物番号	6
	郵便番号	1000
	都市名	BRUSSELS
	国名	BE
身分証明書番号	パスポートナンバー	111111111
送金人の口座番号	口座番号	IBAN BE3000121637141

# CBDC : 国内利用 から クロスボーダーリンク へ

## ① CBDCの国内利用 (フェーズ I)

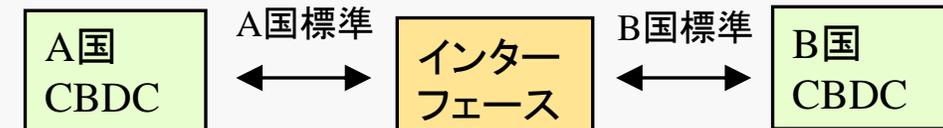


## ② CBDCのクロスボーダーリンク (フェーズ II)



# CBDCのクロスボーダー利用：そう簡単ではない？

## mCBDC (multi-CBDC) の実現方法：BISの3つのモデル

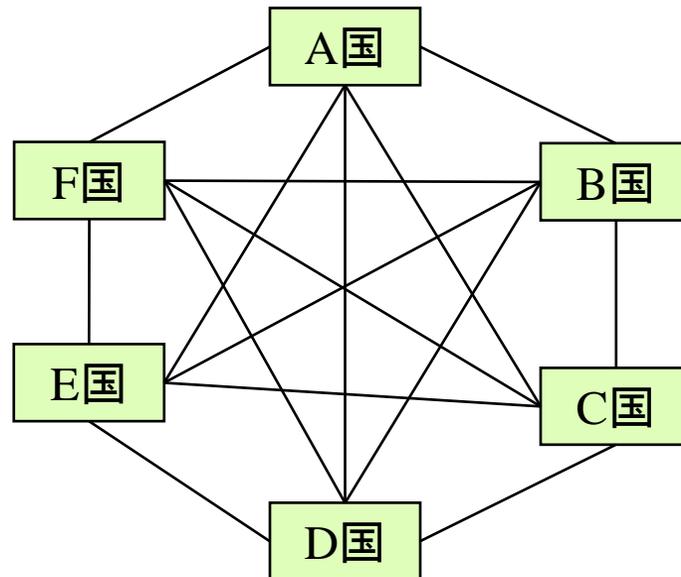
モデル	実現方法	
モデル1	各国が同じ国際標準を使う (すべての国が同じ標準を採用することが可能か?)	
モデル2	インターフェースによって接続する (数多くのインターフェースが必要になる?)	
モデル3	単一のCBDCプラットフォームを構築する (誰が構築し、運営するのか?)	

## 2国間リンクの限界

リンクが可能  
であるとしても...

### ➤ スパゲッティ・モデル

- 2国間のリンクによって進めようとする、  
多数のリンクが必要となる → 非現実的？



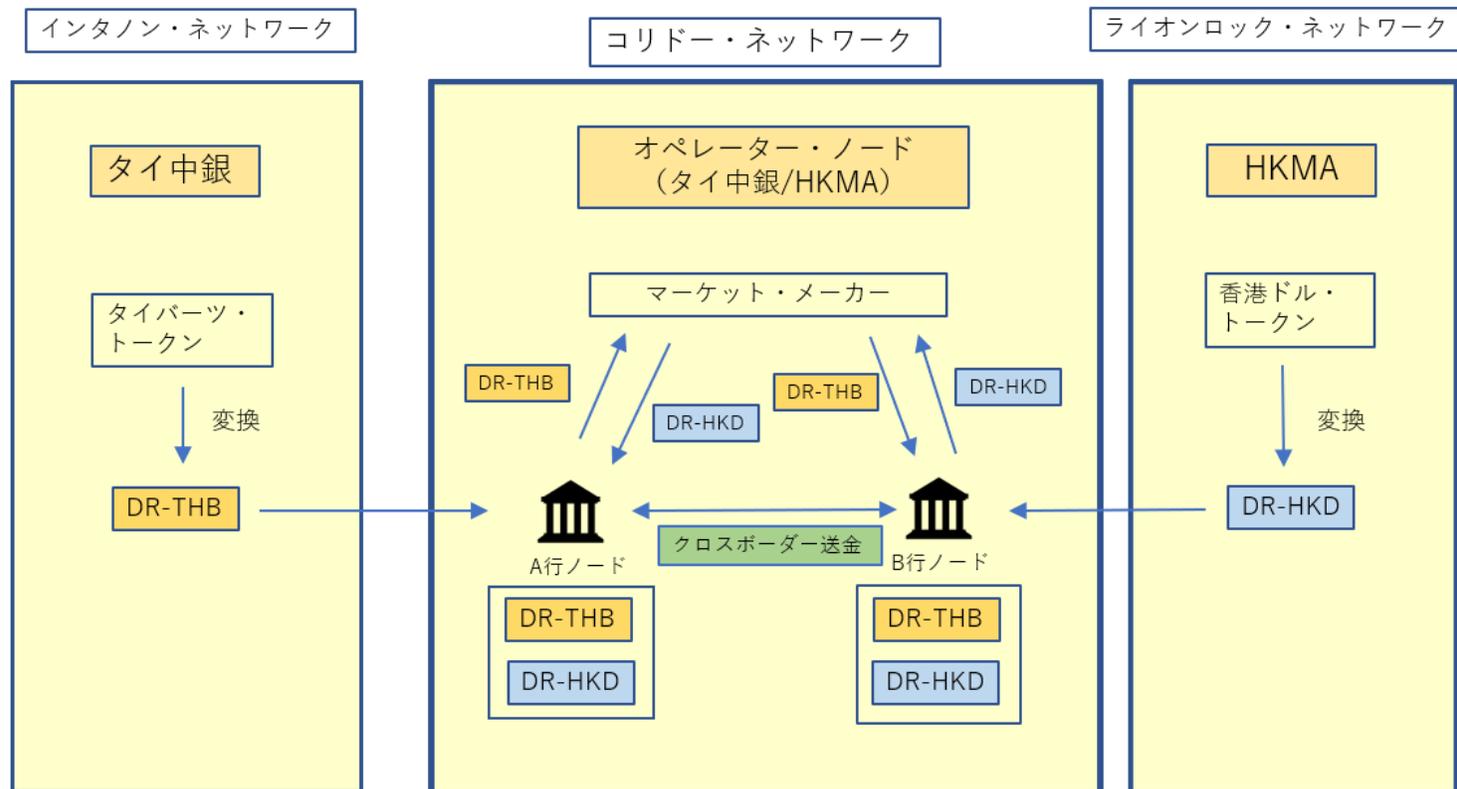
$n \times (n-1) / 2$  のリンクが必要

6カ国 = 15 のリンク

## 中銀間の接続実験

# タイ中銀 と HKMA (香港)

- ・ **プロジェクト・インタノン・ライオンロック** (2019年9~12月) : 大口CBDC
- ・ 中間に **コリドー・ネットワーク** を設置



中国 と アラブ首長国連邦 (UAE) が参加 (2021年2月)

→ 「mBridge 構想」に!  
(Multiple CBDC Bridge)

\*DRは、デポジトリリー・レシート